

1. 研究活動

子どもを対象とした音楽療法における音・音楽の使い方	2009. 5. 30	日本音楽療法学会中国支部主催 第9回日本音楽療法学会中国支部大会	日本音楽療法学会中国支部会員を対象に、子どもを対象とした音楽療法における音・音楽の使用の仕方について90分間講義した。対象児の障害や特性に合わせた音楽の要素の用い方を、選考文献、自身の研究、自身の実践からの示唆を織り交ぜながら講義した。
---------------------------	-------------	-------------------------------------	--

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目 音楽療法技法Ⅲ、Ⅳ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
音楽療法技法では、Ⅲ（3年次後期）とⅣ（4年次前期）で一貫した教育を行うことで、音楽療法で必要となる即興や伴奏技法を習得できるよう工夫した。そのため使用するテキストは同じものを使用し、テキストを元に実践で使用する曲を学生自ら作曲したり、グループワークにて模擬セッションを組み立てさせるなどの機会を設け、修得した技術の応用力を身につけることも目指した。	使用教材 「音楽療法ワークブック 相手を活かす 即興と伴奏 役立つパターンと10の課題集」	
授業科目 音楽療法各論Ⅰ		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
子どもを対象とした音楽療法実践に必要な基礎知識について講義した。関連する学問分野が多岐に渡るため、なるべくそれらを俯瞰できるよう資料を作成し、使用した。	必要な知識をまとめたプリント13枚作成。	

3. 学会等および社会における主な活動